



■Publisher: Kumamoto International Foundation 4-8 Hanabata-cho, Kumamoto City, 860-0806, Japan

■発行: (財)熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市花畑町4-8

Tel: 096-359-2121 Fax: 096-359-5112 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/

多文化共生社会とは

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、
対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていける社会」

2009年2月14日(土)、熊本県立大学に於いて、同大学と当事業団の共同でシンポジウムを開催しました。熊本県内外から約100名の方々にご参加いただきました。

「熊本県在住の外国人を取り巻く諸状況」についての調査報告とそこから見えてきた課題等の発表、そして「熊本の外国人」をテーマとしたパネルディスカッションでは、地域と大学が担うべき課題解決の取り組みについて討論がなされました。3部構成の最後を飾る長岡市国際交流センター長羽賀友信氏と多文化共生センター大阪代表理事田村太郎氏による対談「日本人と外国人」では、今、日本社会にも必要とされる「チェンジ!」が熱く語られました。

第1部 「熊本県在住の外国人を取り巻く諸状況」 調査(アンケート)から見えてきたもの

2007年、日本の外国人登録者数は、2,152,973人で過去最高となり、総人口の1.69%を占めました。一方、熊本県の外国人登録者数は9,107人で、県内総人口の0.49%となりました(過去最高の数字)。県内で外国人登録者数が多い地域は、熊本市4,062人、八代市834人と続きます。これを国籍別に見ると、その半数近くを中国籍が占めており、フィリピン、韓国・朝鮮、アメリカの順となります。このように日本、熊本で暮らしている外国人を、統計数字上から見ることはできますが、彼らの生活ぶり、課題などを把握することができません。

今回の調査(アンケート)で、「近隣住民との関係」について外国人・日本人双方に質問を行ったところ、「良好である」とした外国人は67%であったのに対し、日本人はその半分以下の31%でした。「外国人は地域のルールを守っているか?」という質問で、「守っている」と答えた外国人が79%であったのに対し、日本人は44%でした。外国人自身は地域のルールを守っていると思っても、日本人には不十分と映っているようです。なぜでしょう? 反面、「外国人(日本人)住民と仲良くしたい。」という質問では、「仲良くしたい」と答えた外国人は86%、日本人は72%、と共に交流を強く期待しているという結果が出ました。

これだけの結果をみても、「外国人に必要な情報が届いているのか?」、「意識の違いの原因は何か」、そして、「互いに仲良くしたいと思っているのにできないのはなぜか?」、同じ地域に暮らしているながら、直接的な接点が少ないこと(お互いに無関心…)がわかりまし

た。さらに、「日本語」という言葉の問題や「異文化」の生活環境という課題があるようです。では、どうすれば良いのでしょうか?

第2部 パネルディスカッション ～熊本の外国人～

羽賀氏(コーディネーター)、田村氏に加え、熊本県立大学准教授の明石照久氏、当事業団常務理事の松本富士男の4名で、「熊本の外国人」をテーマに、地域と大学が担うべき多文化共生社会の課題解決の取り組みについて、パネルディスカッションを行いました。

2006年まで神戸市職員として国際理解教育・外国人雇用を担当された明石氏は、国際化と言えば、英語・欧米と思われがちだが、多様な言語、文化が存在することを享受する必要があることを述べられました。はじめて来日した外国人には、バスの乗り方や公共料金の支払い方など、日本人には極普通のことがあることが困難ことがあります。お客様としてはではなく、同じ住民として接することから、国際交流・多文化共生が始まります。



CONTENTS

多文化社会とは	1・2P
ちょっとわせてはいよ「別れの挨拶」	3P
KIFからのお知らせ	4・5P
国際掲示板	5P
世界を知る<国際協力><留学>	6P
未来のために一明日のために一	7P
ちょっと日本語&英会話ドラマ制作プロジェクト	8P

阪神淡路大震災をきっかけに多文化共生センターを立ち上げられた田村氏が、震災時に日本語以外で情報が提供されていないのは、多くの外国人が日本に住んでいることに気づいていない、お互いにどのような人が近くに住んでいるのか知らない社会は問題があることを指摘されました。災害時にどうするかよりも、生活情報を多言語で提供すること、日本語を学ぶ機会を設けることなど、「日常」のまちづくりが最も重要であること、そして、このような地域の課題に大学がどのように向き合っていくのかを考える機会にしたいと話されました。

当事業団の取り組みについて、松本が、国際交流会館では、多文化共生事業として日本語教室、帰国者のための相談、「くらしのにほんごくらぶ」などの活動を行っており、多くの外国人にご利用いただいていることを紹介しました。課題の1つとして、熊本市内には、約4,000人の外国人が住んでいるが、どこに住んでいるのか特定はできていないことが指摘されました。今後は、災害時多言語情報ツールを利用し携帯電話への多言語による情報配信システムの構築を行い、同時に熊本市のシティFMと連携を図って行きたい、さらに、大学に対して、学んだことの実践の場を提供し連携を進めていきたいなど、多くのことが述べられました。

災害時の情報提供・配信について、羽賀氏からその手段としてFM放送は大変重要な役割を担っていることが補足説明されました。FMは被災地に向けて情報を配信し、全国放送は被災地の情報を外に向かって配信する - 内向け・外向けの2方向の情報配信が必要となります。

大学の中の地域の中での役割

羽賀氏、明石氏より、災害時には多くの大学・研究機関が取材・研究のために訪れるが、その時の調査結果が報告や提言に至ったケースは多くないと報告されました。調査データは、地域に還元・活用されてこそ、その意味が発揮されると話されました。

田村氏は、災害時には、緊急時の三角ネット（緊急時には、地域での支援体制、周辺地域でのコーディネート、被災地外で必要な情報を翻訳し、被災地に戻す）があるが、これは普段から顔の見える関係づくりを作っておかなければ、機能しない。大学には、たくさんのリソースがあり、それを地域で活用する。地域は、大学という施設や人的リソースをもっと活用すべき、と提案されました。

最後に、羽賀氏より、多文化共生は「してあげる」という視点ではなく「共に地域づくりを行う」もので、地域内に外国人住民の能力が活用される仕組みがあれば、彼らが中心となってまちづくりができる、自分がその地域で必要とされると感じられたら、その人は地域において外国人住民ではなく、地域のリーダーに変わっていくとお話しされました。「顔の見える関係は安心を生みます。」とパネルディスカッションが締めくくられました。

第3部 対談 羽賀氏 vs 田村氏 ～日本と外国人～

第3部は、田村氏の「原点に戻って多文化共生を理解するのにこの言葉 ～ 多文化共生社会とは『国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていける社会』。～ をどう思いますか？」という問いから始まった。

「～対等な関係を築こうとしながら・・・」ということが重要である。進行形であり、多文化共生に終着点はなく、常に課題も環境も変わって行く中で、配慮すべき問題も常に変化し続けるということです。いつも、自分自身がおかれた社会、そこでの外国人住民との関係を振り返り考えながら、共に生きて行くことができる社会を構築するために努力し続けることが大切です。多文化共生で一番大事なことは、ホスト（受け入れ）側の住民、そして社会が変わっていくという視点が重要です。今、一番変わらなければならないのは地域社会です！

まとめ

前述の「熊本県在住の外国人を取り巻く諸状況」調査（アンケート）の日本人の回答に、「日本で暮らす以上は日本人になって欲しいし、文化を積極的に学んで欲しい」という声や「地域のルールを守るよう努力して欲しい」、「日本で暮らすのであれば日常会話くらいは（学んでほしい）」といった声もありました。しかし、日本に暮らす外国人は自ら望んで来日した人ばかりではありませんし、仕事や諸事情で仕方なく日本で生活しているという人もいます。そのような人々にまで日本語学習の強制や日本人になって欲しいという同化を求めることは少々乱暴であるように思えます。彼らが日本での暮らしをスムーズにする手段として日本語を学習することや地域のルールを知ろうとする歩み寄りも必要ですが、日本人～私たちが受け入れる体制を整える必要もあります。

現在、人口動態において日本社会は少子高齢化が進んでいて、労働人口は今後も減少を続けていくことが分かっています。このような状況の中で外国人労働者の存在は、日本の社会・経済の維持に必要な不可欠なもので、彼らが、日本人と同等の権利・義務を有し、安心して働くことが出来る社会の形成が早く論議されなければなりません。そのためには、将来、5年後ぐらいの社会を見据えて、多文化共生社会に必要な人材を地域で育てていくことが大変重要であり、今、まさにターニングポイントにあります。

パネラーの皆さんはまだまだ話足りないという感じでした。参加者の皆さんももっと聞きたいという中で、今回のシンポジウムは終了いたしました。多文化共生の社会は、みんなで考えて、変えていかなければいけない。ひとと人の結びつきが一番大事なことだと実感したシンポジウムでした。紙面の関係上内容を抜粋して掲載しております。シンポジウムの全内容、パネラーの紹介につきましては、当事業団のホームページ上でご紹介させていただきますことをご了承ください。

<http://www.kumamoto-if.or.jp>

ちょっといわせてはいよ

お別れの挨拶

筆者:熊本市 中国国際交流員 方 暁晴さん



寒い冬が終わり、暖かい春が間もなく来ます。桜が満開の季節に私は帰国することになります。一年間という短い期間でしたが、皆さんのおかげで、熊本市で素晴らしい日々を過ごすことが出来ました。

「天下没有不散的宴席」(終わらない宴席はない)という中国のことわざの通り、お別れの言葉は悲しくて、嫌なのですが、熊本市にたくさんの友達と知り合いが出来て嬉しかったです。熊本の美しい風景と人々に出会うことが出来て、いい思い出に溢れています。

私は初めて来た時、ホストファミリーの皆さんと一緒に遊んだり、色々喋ったり、大変お世話になりました。日本人の生活習慣とか、礼儀とか、いろいろ教えてくださいました。そのおかげで、私は寂しさを忘れ、すぐに熊本の生活に慣れました。皆さんのご親切は一生忘れられないものです。

熊本市は資源を生かし、豊かで住みやすい都市だと思っています。日本に来る前に、日本三名城の一つとされる「熊本城」の名を聞きましたけど、ことわざに「百聞不如一见」(百聞は一見に如かず)と言われるように、その雄大な大・小天守閣、美しい本丸御殿と四

百年が過ぎて歴史の雰囲気溢れる武者返しは、まるで熊本の魂のようです。私は見るたびに感動しています。

国際交流員として、熊本市にいる間に、熊本市と中国の交流が円滑にいくように手助けをする一員として努力してきました。国際交流活動やイベントや学校訪問などに参加して、中国のことについて、紹介しました。熊本市の小学校や中学校または公民館へ訪問に行くたびに、本当に心温まる歓迎をしていただき、これは私にとって、なにより嬉しいことでした。私のサロンや相談に参加して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

今年は熊本市と桂林市友好都市締結30周年の記念の年です。四月に行われる「桂林・熊本友好訪問」の仕事が終わったら、国際交流員としての仕事も終わります。私は帰国しても、熊本市の皆さんの溢れる友情を持ち帰り、中国の多くの人々に伝えたいと思っています。

中国語で別れる時に「再见」と言います。日本語の「さよなら」と違って、「再び会える」という意味です。今、熊本の皆さんに「再见」を言って、きっといつかまたどこか会える日を楽しみにしています。ありがとうございました。



留学生の皆様へ 日本と学生さんと楽しく交流できます!

食事・家具・家電付き 男女学生会館

ドーミー熊本

DORMY KUMAMOTO 女性専用フロア有

通学にも便利で好立地の味噌天神

市電「味噌天神前」電停より徒歩約1分
JR豊肥本線「新水前寺」駅より徒歩約5分

〒862-0971 熊本市大江5-17-27



いつもおいしい食事と
マネージャー夫妻が常駐で
生活もセキュリティもとっても安心!

帯伙食、家具和家電の男女学生会館
식사제공, 가구·가전제품이 설치되어
있는 남녀 학생회관

Male & Female Student Residence Halls
with Meals, Furniture, and Electrical Appliances

CHECK POINT! [ワンルームマンションタイプ]

- 1 留学生の方は、**特別料金**で入居できます
- 2 **短期間～長期間**まで入居可能です
- 3 **インターネット**利用可能 (パソコン本体はごさいせん)
- 4 マネージャー夫妻が**親身に御世話**をさせていただきます

全国1,100名の
留学生入居実績!



お問い合わせ
お申し込みは



0120-88-4921

共立の学生会館

検索



ひとを包むエネルギー
株式会社 共立メンテナンス

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-3-23 [東証一部上場企業]

◆ インターナショナルサロン ◆

気軽に国際交流が楽しめると大好評のインターナショナルサロン。3月、4月の予定は下記のとおりです。お申し込みは毎月1日から。1日が土日祝日と重なった場合は、翌平日からの受付となります。お早めにご予約下さい。

参加費は各300円です。

定員：各18名

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

時間：(1)～(4) 14:00～15:00、18:30～19:30

(5)～(6) 14:00～15:00

(7)～(9) 18:30～19:30

(1)アメリカサロン	3月12日(木)、4月23日(木)
(2)中国サロン	3月26日(木)、お休みします。
(3)ドイツサロン	3月19日(木)、4月9日(木)
(4)英語サロン	3月16日(月)、4月21日(火)
(5)韓国語を学ぼうサロン	3月27日(金)、4月24日(金)
(6)中国語を学ぼうサロン	3月13日(金)、4月17日(金)
(7)中国語サロン	3月24日(火)、お休みします。
(8)ドイツ語サロン	3月17日(火)、4月7日(火)
(9)フランス語サロン	3月13日(金)、4月17日(金)

◆ つきいち世界を知ろう！ ◆

小中学生を対象に、月一回世界中のおもしろい習慣や風習を体験したり、歴史について学びながらもっと世界を身近に感じてもらうイベントです。参加無料!

3月のテーマは“アメリカ料理教室”

アメリカの料理教室を開催します。アメリカ風タコスを作ります。簡単につくって美味しいアメリカ料理をお楽しみに!

講師：ベンジャミン・グリフィンさん

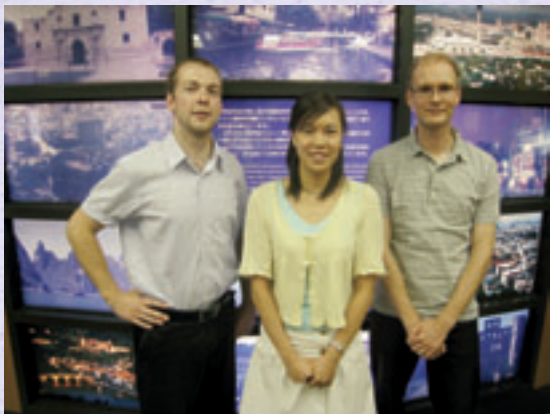
方 暁晴さん

日時：3月28日(土) 10:00～12:00

場所：熊本市中央公民館

定員：20名

参加方法：3月2日(月)9:00から申し込み受付開始



4月のテーマは“イースター”(復活祭)

キリスト教で大切なイベントである“イースター”についてお話しします。イースターってどんな日?みんな何をするの?

講師：ベンジャミン・グリフィンさん、

フローリアン・アクストさん

日時：4月11日(土) 10:00～12:00

場所：熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム

定員：20名

参加方法：4月1日(水)9:00から申し込み受付開始

◆ 世界の現状を知ろう ◆

毎月いろいろな国を紹介して、私たちの知らない各国の現状を発見していただくためのサロンです。いろいろな国の新たな発見をしてみませんか。

3月は～モザンビーク～

日時：3月21日(土) 14:00～15:00

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

定員：15名

対象：どなたでも

参加費：無料

参加方法：3月2日(月)9:00から申し込み受付開始

4月は～ネパール～

日時：4月25日(土) 14:00～15:00

場所：熊本市国際交流会館2Fミーティングルーム

定員：15名

対象：どなたでも

参加費：無料

参加方法：4月1日(水)9:00から申し込み受付開始

◆ こども「ものづくり」教室 ◆

毎月1回、“ものづくり”を通して、子ども達の無限の創造力を引き出し、豊かな心を育てます。一つのものをつくるという活動を通して交流を深めます。熊本ものづくり塾と共同開催です。参加無料!

3月の作品 ケナフを使ったものづくり

日時：3月21日(土) 10:00～12:00

場所：熊本市国際交流会館B2F多目的ルーム

定員：30名(先着順)

対象：小中学生とその家族

参加方法：3月2日(月)9:00から申し込み受付開始

昨年から国際交流会館で育てたケナフを使って、様々なものを作ります。参加者にはケナフの炭石鹸やケナフの種のプレゼントがあるかも!

◆ 2009ミニ旅行博 ◆ in くまもと

海外の魅力をもっと身近に感じてもらえる「2009ミニ旅行博 in くまもと」を開催します。

駐日の各国大使館や政府観光局などのスタッフが来熊!観光の魅力を紹介します。あなたの知りたい“旅”情報が満載のイベントです。

日時:平成21年 3月20日(金)
10:00~18:00

会場:熊本市国際交流会館
1Fエントランスホール



世界を良く知るセミナー

ベテラン添乗員による「海外旅行をもっと楽しむためには!」も同時開催!

日時:平成21年 3月20日(金)
13:00~14:30

会場:熊本市国際交流会館2F 交流ラウンジ
定員:70名

参加方法:3月2日(月)9:00から
申し込み受付開始

◆ 2009国際交流・協力団体(NGO)協働 ◆ “SAKURA”祭

今年も国際交流・協力団体(NGO)が集結して“SAKURA”祭を開催します。熊本を拠点に活動している国際交流・国際協力団体(NGO)をもっと多くの方に知ってもらい、活動に参加していただくためのイベントです。

今年のテーマは、「『始めようエコ』熊本で世界で」です。

日時:3月21日(土)~22日(日)11:00~17:00

会場:熊本市国際交流会館

内容:国際交流・国際協力団体(NGO)の紹介、世界のグルメ、パズル、コンサート、ものづくりワークショップ、etc...



国際掲示板

「ブータン・エコツアー2009」

- ・テーマ:環境地域づくり、エコツーリズム、アジア自然学校、環境教育、
- ・期日:2009年6月中旬 10日間程度。
- ・訪問先:ブータン王国及び、インドまたは、タイまたは、ネパール
- ・コーディネーター:検討中。
- ・主管&企画・運営:(特活)コミネット協会
- ・対象と定員:18歳以上の男女10名程度
- ・主な活動内容:エコツーリズム、交流、体験活動、
- ・参加費(概算):45万円/1人程度。(詳細は、検討中。)
- ・備考:※詳細は、パンフレットを作成します。

(特活)コミネット協会

〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31

TEL/FAX.096-387-7139

※ KDSは、お客様満足の向上と社会への貢献を目指しております。

貴方の運転は 普通・普自二・大自二

クイックコース募集中
限定30名

熊本ドライビングスクール



熊本市楠6丁目6-25
0120-373-634
URL <http://www.k-ds.net/>

KDSから始まる



世界を知る。

このページは、「世界を知る」をテーマに日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を、「国際協力」と「留学」の各専門家からご紹介いただくシリーズです。国際協力については、独立行政法人国際協力機構(JICA) JICAデスク熊本 国際協力推進員の吉田 智和さん、留学については留学アドバイザーの方々です。



<国際協力> - ホンジュラスの小学校教育 -

年々、青年海外協力隊への教育協力の要請が高まってきています。そこで今回は、中米ホンジュラスで小学校教諭として活動している矢草山誠さんから活動の様子をお伺いいたしました。



みなさんこんにちは、私は今も中米のホンジュラスと言う国で、小学校教諭として活動中の矢草山誠です。

現在、ホンジュラスには「算数大好きボランティア派遣事業」と言うプロジェクトがあって、18名の小学校教諭の隊員が派遣されています。長年、ホンジュラスでは小学生の留年・退学率が高いことが問題になっていました。現在でも小学校への入学率はほぼ100%近いのに、小学校を6年間で卒業できる児童の割合は35%ぐらいです。残りは卒業までに少なくとも一回は留年していることとなります。



【研究授業の様子】

既に、留年の原因となっている教科はスペイン語と算数だと分かっています。

そこで20年ほど前から算数の分野での隊員派遣が始まり、継続的に協力隊員がホンジュラスで活動するようになりました。少しでもその効果を大きくするために、隊員はホンジュラスのいろんな所で活動しています。

主な活動としては新しくできた算数の教科書を普及させたり、指導書を持って授業をすることの大切さを講習会等で伝えたりしています。時には研究授業会や算数運動会などを他の隊員と協力して開催することもあります。また、毎日の活動の中で現地の教員と一緒に分かりやすい授業を作り上げたり、一緒に学び合ったりすることも、お互いの信頼を深めるのに欠かせないことです。

しかし、教科書ができたことや研修システムが確立したことを除けば、まだまだ現場までその効果が行き届いていないようにも思えます。それでも、一緒に仕事している先生の教え方が前より上達したり、児童が前よりも熱心に算数を勉強する姿を見たりするとうれしくなります。



【算数運動会の様子】

今、ホンジュラスで何かが育ちつつあります。それは本当に小さな一歩ですが、この一歩が感じられるからこそ、私たちはここで楽しく活動できるのでしょうか。この前向きな気持ちを忘れることなく、残りの任期を全うしたいと思います。

※算数運動会・・・通常の計算大会に日本の運動会の要素を取り入れて、より現地の教員や児童が楽しく参加できるようにしたもの。算数の面白さや楽しさを、現地の教員や児童に分かり易く伝えることができる。
また、この取り組みを通じて、現地の教員に自信をつけてもらい、児童のやる気を引き出す事を最大の目的としている。

次回は、エジプトで青少年活動の隊員として活動中の小林さんから『エジプトの子どもたち』についてです。

<留 学>

一親子留学～人種の壁ができる前に異文化を体験～

「子供に小さい頃から異文化体験や生きた英語に触れさせたい」「親子で海外生活してみたい」「若い頃できなかった留学の夢を子供と一緒に実現したい」こんな気持ちで、親子で行く海外留学が、近年ぐっと増えています。

親子留学とはお母さん、またはお父さんがお子さんを連れてする留学です。誰が主役で、何が目的かでプランもいろいろ。長期間ではビザ取得などもあり大変ですが、夏休みや春休みを利用した短期間の留学ならそんなに難しくはありません。親子で一緒に多くの経験ができるので、家族の人数分だけ感動や思い出がより膨らむ留学です。

お子様の年齢の早い段階での留学は、きっとすばらしい体験になり、その後の人生に大きな影響を与えるのではないのでしょうか？

お子さんは… 現地サマーデイキャンプに参加やESLプログラムに参加などお子様の年齢や、希望に応じて適した現地プログラムに参加します。

保護者の方は… 語学学校、または習い事をしたり、観光、ショッピングなど、期間や、やりたいことをヒアリングした上で適したプログラムを受けることができます。

滞 在 形 態 ホームステイ、コンドミニウム、ホテル、アパート等
滞 在 期 間 1週間以上～

筆者：(株)グローバルスマイルジャパン 代表取締役 松本 いづみさん

一子ども留学～世界を見よう!異文化体験を通し国際人育成の基盤づくり～

幼い頃から自分で環境に適応していく能力を身に付ける事により将来、国際性と柔軟性を自然に身に付けることが出来るでしょう。日本のように単一文化の国では、こういった経験をする事が安易ではありません。子ども達に出来る限り様々な環境を見せ、体験させる事を目的としたプログラムが増えてきています。子ども達の可能性を最大限に広げるには、まず、いろんな事を知る事です。日本だけでは、見えない事が沢山あります。経験出来ない事が沢山あります。是非日本の外に出て世界を見せてあげてください。

*ローカルサマーキャンプ (アメリカ)

【現地の子ども達を通うサマーキャンプに参加】

・一般Dayキャンプ・スポーツキャンプ・サイエンスキャンプ・コンピューターキャンプ

・スタンフォード大学KIDSキャンプ

*イングリッシュキャンプ(カナダ)

【英語に自信がないお子様でも安心!】

・日本人を対象にしたイングリッシュプログラム・ESL キャンプ(インターナショナルキャンプ)

子供達にとって様々な国から人々が集まってくるカナダ・アメリカでの体験は掛け替えのないものとなるのは必須です。

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。

出会い→共有→協働

2月10日に、私が指導している長岡高専の学生支援GP最終報告会を行いました。これは、キャンパスの国際化を推進するためのプログラムであり、国際関係学演習、ものづくり海外研修(中国・ベトナム・マレーシア)、その他活動報告が行われました。

演習は、留学生と日本の学生がグループに分かれ、協働して一つのテーマをディスカッションし、プレゼンテーションを行いました。その中で価値観の違う学生がお互いに何を考えているのかを引き出すファシリテーション能力と、相手に自分の意見を明確に伝えるプレゼンテーション能力が同時に発揮されたとき、コミュニケーション能力が高まることが理解されました。海外研修は、三つの国で両国(日本と相手国)の学生が協働して、ものづくりを行いました。

この中で学生に共通のコメントは、違う文化に触れることによって、自分がよく見えてきたということです。さらに言語の重要性が理解できたこと、特に海外研修の学生は、出発前は日本と全く異なる場所に不安を感じていましたが、そのような中にも自分が知っている世界があり、自分の知っている世界と、自分が知らない世界がしっかりと繋がっているということを実感し、「そこに何も違いがない」ということを感じたそうです。

違う文化を越えて、一つのテーマでディスカッションをして、協働して結果を出すおもしろさにも気が付いたそうです。最後にそれをプレゼンテーションにより、明確に他者に伝えることにより、コミュニケーション能力を伸ばしました。



筆者:羽賀 友信さん
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
新潟NGOネットワーク顧問
JICA地球ひろば 国際協力サポーター
長岡市教育委員
JICA専門家

一方、我々が進めている国際化を考えると、国際交流、多文化共生、国際協力がバラバラに存在していると思います。国際交流を出会い、多文化共生を共有、国際協力を協働と置き換えてみると、出会い→共有→協働という意識が見えてきます。これらを直線上に置くことで、我々が地域で進めるべきプロジェクトのあり方がわかりやすくなると思います。

これを進めるにあたって、地域の特性を生かした人々のネットワーク化が大事であり、ミディエーターとしての地域国際化協会のあり方が大きな意味を持ちます。国際協力という大きなプロジェクトも、地域の人々に支えられて実行されるわけですから、地域文化をベースとして、多様な特技、意見が生かされるプラットフォームがなければ、共有することは難しくなります。しかし、多様なプラットフォームが立ち上がれば、大きなコンセプトが共有され、次の協働へと発展していくと思います。この過程で、人材の発掘と育成が同時に行われ、未来への地域づくりも推進されます。

ゼッパ 寺子屋スタイル!

[平成21年度] 新入生のための 学校説明会開催中!

『学年が遅れず進級・卒業が出来ます。高卒 日本航空高校 資格取得 出席不足、欠課による留年決定でも諦めないで!』

日本航空高校【熊本キャンパス】

志成館高等学院

《ホントウの勉強がしなくなったら》

平成21年度(新入生・転入生・編入生)受付中!

募集対象:【中学卒(新卒・既卒)・転校(転入・編入)希望者】
[授業料は負担の少ない月謝制を導入]

特典 ●各種奨学金制度 ●各種資格取得
●特待生制度 ●全国大学・専門学校推薦制度

社会に出れば、すぐに役立つ!「使える勉強」を教えます。しかも、高卒 日本航空高校の学歴取得を支援します。あなたも新しい扉を開いてみませんか?

熊本本校

☎0120-08-3730

〒862-0973 熊本市大江本町7番3号

熊本県教育委員会指定技能教育施設

<http://www.siseikan.net> 資料無料送付

Japanese Tip
ちょっと日本語

やさしい日本語

日本語研究会ASA 小川ひろみさん

「地域の多文化共生」が時代のキーワードになって久しく、最近では「やさしい日本語」つまり、日本語の理解を相手に求めるだけでなく、視点をかえていっしょにコミュニケーション手段として日本語を考える取り組みが盛んです。

「やさしい日本語」のために、

1. 短く話す (明確に簡潔に、特に語尾をはっきり。)
2. カタカナや漢語系の言葉は英語や中国語と同じではないので要注意。
3. 敬語やあいまいな表現は避ける (特に「ないんじゃない?」などの二重否定に注意)
4. 擬音語、擬態語 (どんどん・ふわふわ等) 感じ方が違うので別の表現で。

わかりやすく話すコツは①短くはっきり ②繰り返す ③確認する

外国語としての日本語ばかりでなく、私たちの日常のことばを見直すきっかけでもあります。

平成21年度賛助会員募集!!

(財)熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、Denkikan様のご協力により映画鑑賞料金の割引特典や当事業団主催講座の受講料会員割引特典もあります。

①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上) ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)平成22年3月までの会員期間となります。

〔個人〕50音順(敬称略)

入江 常治 高橋 雅風
 上田 教子 松崎 昇
 上田 修義 松本 忠次

熊本の国際交流活動を応援しています。

〔団体〕50音順(敬称略)

阿蘇ハイランド開発(株) (株)県民百貨店 (有)ビジネスマン新熊本ホテル (有)北翔工業
 熊本ドライビングスクール (株)コスギ不動産 福田病院 マルヒサ食品
 (株)熊本放送 (株)JT九州 熊本支店

継続・新規加入ありがとうございました(平成20年12月11日～平成21年2月10日現在)

入会のお申し込み・お問い合わせ

(財)熊本市国際交流振興事業団 事務局 〒860-0806 熊本市花畑町4-8 熊本市国際交流会館内
 TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783 e-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

『英会話ドラマ制作プロジェクト』始動! サポートセンターボランティア かじ えいせい さん

国際交流会館2F交流ラウンジでは無料でインターネットの使用やDVDの視聴ができ、また、世界の国々を紹介する多数の書籍を自由に閲覧できます。学生、社会人にかかわらず多くの方々にご利用されています。皆さん、ここがサポートセンターボランティアの活動の場です。利用者に対する案内や相談にも対応することがあります。国内外を問わず、いろんな目的を持った方が訪れるため、たくさんの方々とのコミュニケーションを通じ、いろいろなつながりができています。

そんな中で、サポートセンターボランティアが主体となり、『英会話ドラマ制作プロジェクト』がスタートしました。ボランティアが企画から撮影まで、それぞれの特技や興味を生かし、キャスト・カメラマン・編集などの役割に当たり、現場での基本的英会話をドラマ仕立てに作っています。たとえば、ショッピングや電話、レストランなどの日常会話や決まり文句などを中心に盛り込み、演技をしながら会話をします。それを、デジタルビデオカメラで撮影して、字幕や音楽などを加え編

集し、YouTubeやSNSなどの無料の動画サイトなどに投稿して世界に発信していく、といった活動です。最終目標は、DVD化して教材までを視野に入れています。

サポートセンターボランティアに登録されている方であればどなたでも参加できます。英語力も技術も問いません。好奇心と情熱、そして行動力さえあれば結構です。参加者全員で、話し合いながら手がけていくので、達成感を実感できると思います。具体的活動内容は、月に一回の割合でロケを行い、編集して動画配信することを目指しています。この活動は実践的な英会話のスキル向上のみにとどまらず、国際交流やボランティア同士のコミュニケーションを向上させ、一体感、団結力を高めるものです。

皆さん、一緒にプロジェクトに参加しませんか!



- 熊本市電より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩3分
- 熊本市電より熊本城前下車 徒歩3分

from Kumamoto Airport-45minutes by car

from Kotsu Center-3minutes walk

By Tram-3minutes walk from the "Kumamoto jou mae" stop

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 平日 午前9時～午後8時

土、日、祝日、午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
 Service Hours : Monday to Friday 9 : 00 a.m.-8 : 00 p.m.
 Saturday, Sunday, National Holidays 9 : 00 a.m.-7 : 00 p.m.
 Closed : 2nd and 4th Mondays of each month